

## 丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会 第11回合同会議録

日 時 平成25年9月5日(木)

午後7時から午後9時15分まで

会 場 丸山公民館2階 大会議室

出席委員 丸山地区21名 和田地区23名

欠席委員 工藤委員 井上委員

傍聴人 3名

### 1 開会

#### 2 委員長挨拶(丸山地区委員長)

こんばんは。9月とはいえ大変暑い中、一日のお仕事後の大変お疲れのところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方にはこの会のほか、専門部会でもいろいろと協議されるなど、本当に御苦勞様でございます。本日も、統合小学校建設候補地についての議題が第2号に挙がっております。この点について、お伺いをしまして、慎重に前向きに率直な御検討をお願いしたいと思います。

#### 3 教育長挨拶

どうもこんばんは。お集まりいただきありがとうございます。特に、4月1日開校に向けて準備を進めてくださっている専門部会の方々、この会議とは別に何度もお集まりいただき協議をされていること、改めてお礼申し上げます。今日は、専門部会の協議事項、そしてあとは小学校の建設場所についてということで、また皆さんから御意見をいただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

#### 4 報告等

第10回の学校再編検討委員会合同会議を平成25年7月29日に行い、この時の出席委員は、丸山地区21名と和田地区22名となっております。

まず通学支援部会ですが、スクールバス停をある程度絞って検討を行い、人数等を確認しながら進めているとのことで、今後は街灯の設置や部活動に係るスクールバスの運行を要望していきたいという報告がありました。

次に校歌・校章部会ですが、校章デザインの募集中ということで、9月13日が締め切りとなっていることや、校歌については、現在作成中という報告がありました。

次にPTA部会ですが、丸山中と和田中でそれぞれ生徒1人当たり220円を持ち寄るということや、今後は来年度の役員選出について検討していくとの報告がありました。

次にカリキュラムと学用品についてですが、制服については4社によるプレゼンテーションを行い、

その結果、社会貢献度や値段、また安全性を考慮したデザインなどで最も優れているオゴー産業にお願いすることになったという報告がありました。

次に、議題の第1号「専門部会協議事項について」は、特に案件がありませんでした。

続いて議題の第2号として「統合小学校建設候補地について」検討をしていただきました。

まず、南三原幼小PTAと和田幼小PTAから「はっきり和田地区というのが分かるC地点に盛り土をして建設した方が良い。」という御意見がありました。事務局からは学校説明会等でも海拔が15mでは不十分との御意見が多いなかで、海拔15m以下のところに盛り土をして建設するという事は、考え難いというお話をさせていただいております。また、委員からこれまでAからE地点で一番良い場所はE地点ということで話し合ってきたわけで、それをC地点に戻すということは条件が悪くなるのではないかとということで、E地点がダメなら違う場所で検討すべきではないかとの御意見もありました。南幼小PTAからは、丸山中隣接地という意見もあるが、これまで検討した中でE地点ということになっているため、E地点を建設候補地として検討した方が良いという御意見でした。その他の委員からは、AからE地点で納得が得られなければ、事務局から違う候補地を提示できないのかというような御意見もありました。その他にも旧町村で1校ずつという考え方に戻したらどうかというような御意見もありました。続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

(配付資料の確認)

この会議録につきましては、検討委員会で承認された後に、市のホームページで公表されることになっております。御質問があれば御発言をお願いいたします。

(質疑等なし)

特にないようですので、前回の会議録につきましては、公表いたしますので御了解を賜りたいと存じます。次に(2)専門部会の検討状況について、初めに、通学支援部会からお願いいたします。

通学支援部会ですが、第8回を8月27日に行い、要望を出していましたが、土曜日、日曜日、長期休業中の部活動についてのスクールバスの運行について回答をいただきました。回答としましては、課業日と長期休業中も検討をするという返答をいただき、学校が始まってから詳しく学校の実情や部活動の実情に合わせて検討をして、最善なスクールバスの運行を検討したらいいだろうということでした。土日につきましては、他地区との調整もあり、運行しないということで委員の方で納得をしまして、長期休業中の充実した運行をしていただくということでお願いをしました。自転車購入補助金の対象を3km以遠の生徒とし、スクールバスを利用可能な生徒の対象は、4km以遠とするということで、どこの地区という設定はせず、キロ数の設定にして弾力的に運用したらいいだろうということになりました。今後の作業について、現在、和田中学校、丸山中学校の合同のカリキュラム部会の方で、実際の部活動

の終わりの時刻を検討していただいているので、その結果を基に教育委員会に下校便の時刻表を作っていただくという作業をしています。1月には新入生説明会がありますので、12月をリミットとしまして調整をしていただいているところです。街灯の要望は、具体的には和田地区ですが、暗い所があるので、電柱の番号を調べまして申請をすることになっております。カリキュラム部会のお返事を待っているところですが、通学支援部会としては、協議事項は一応これで一段落したと思っております。ですから、最後の総まとめで第9回を12月に開催ということで考えております。

ただ今の通学支援部会に対して御質問等ございましたら御発言をお願いいたします。

(質疑等なし)

(校歌校章部会及びPTA部会については、報告等なし)

次に資料はございませんが、行事・カリキュラム・学用品について、丸山中学校長お願いします。

8月5日に和田中学校と丸山中学校の全職員で集まりまして、合同の会議を行っております。まだ、御報告するまで話がまとまっていませんが、それぞれの部会に分かれて話し合いをしています。12月までには大筋のものを出さないといけないと思いますので、今、話し合いをしているところです。

ありがとうございました。ただ今のことで、何か御質問等ございますか。

(質疑等なし)

事務局　　これより議事に入ります。設置要綱第7条第1項の定めにより、委員長に議長をお願いいたします。今回は丸山地区の委員長に議長をお願いいたします。なお、本日、検討委員会に傍聴の申出がございましたので、傍聴者に入っていただきますが、よろしいでしょうか。

委員長　　許可します。

(傍聴者入場)

## 5 議事

委員長　　それでは、本日の出席委員数につきましては、丸山地区21名、和田地区23名、欠席者2名です。両地区とも過半数に達しておりますので、会議は成立いたします。

「第1号専門部会協議事項について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

事務局　　第1号の専門部会の協議事項についてですが、それぞれの専門部会で協議検討を進める中で、この検討委員会で判断が必要な案件がありましたら、発言をお願いします。

(案件等なし)

委員長　　第1号の専門部会協議事項については、協議事項がないようでございますので、次の協議事項第2号、「統合小学校の建設候補地について」を議題といたします。

教育長　　前回からいろいろ考えて参りまして、この再編検討委員会、あるいは全てですが、建設地

決定がゴールではないということです。建設地が決まってから、新しい学校を地域の人たちが心をつなげて創り上げていく、ですから、建設地が決まってから本当のスタートが始まるのだとそんな思いを新たに持ちました。前回、このままいったのでは、建設地が決まっても、いろいろな思いを残してしまうのではないかと強く感じました。会議の折にも、丸幼小PTAの委員からの「今までのファイルを読んで来い」という一言は、私の胸にもきまして、改めまして今までの合同の会議になってからの会議録と、それぞれの地区の説明会での記録を何回か読み直しました。やはり、新しく入られた方が意見を言うてはいけないということではなくて、今まで会議を進めてきたもの、そこで出てきた意見、あるいは地区説明で寄せられた意見、そういったことを踏まえていろいろ決めていかなければいけないと改めて強く思いました。第8回の会議録を読みますと、第1回、第2回でも皆さんから貴重な御意見をいただいております。一番近い、昨年3月26日の会議でどんな意見が出たかと言いますと、和田小学校の方では「E地点という提案があったけれども、和田小学校では丸山中隣接地でいきたい」というような、あるいは南三原小学校の方も、「和田小がその意見なら私達も応援していきたい」という御意見をいただいております。それでも、やはり小学校は南三原小学校区で検討するという事なので、最終的な決定には至らないで、新年度の9回目、10回目、皆さんに参加いただいてその会議になっています。私がそれぞれ1回目、2回目からの話し合いの中身を申し上げる場ではなく、皆さん方もそれぞれの思いを持って、今日の会議を迎えていると思います。したがって、私が今一番考えることは、ある地点を特定して議論するのではなくて、学校の建設場所としてどういうことを考えていったらいいか、あるいは2つの旧地区が一緒になってやっていくわけですから、そのことをどう考えるか、そういったことをもう一回改めて、「思い」、あるいは皆さんの御意見をいただく中で、お互いの信頼関係というと、全くないようで失礼ですけど、お互いの信頼関係を改めて作って、統合に向けてあるいは、新しい学校創りに向けてやっていくのが一番よろしいのではないかと、またそうすることが必要ではないのかと、そんな思いを持っています。先ほど、和田中PTAの委員からもありましたけど、中学校のスタートに向けて専門部会で話し合っているわけです。ですから、旧和田町、旧丸山町で一つの学校を造ろうという動きを今、一方ですしているわけですし、ですから小学校についても同じ思いを持てるように会議を進めていく必要があると思います。この後、事務局から提案いたしますので、御協議いただければと思います。なお、どういう状況にあるかということは、今年度、和田地区で言いますと、小学生両校併せて199人です。これが、南房総市がスタートした時は249人でした。今の1歳児が1

年生になる時、今の6歳児が6年生になる時は、和田小と南三原小を合わせて136人まで減ります。ですから、今、南三原小と和田小を合わせて199人ですが、今分かっている数字だけでも、1歳児からの子供たちを合わせると136人ということです。更に5年後の今の1歳児が小学校に入った時は、更に新しい1歳児から6歳児の数字が出てきます。その子供たちが出てきた時は更に少なくなって100人を割るような数字が出てくるだろうと、これが現実のところでありまして、どうかそのへんも含んで御検討いただければと思います。また、1回目にお配りしました地図ですね、「なぜ、富山小とか他のところは町を越えて統合していない」、「なぜ和田と丸山だけ町を越えて統合するんだ」ということも、いろんな場所で言われています。私も、いろんな場所で説明して参りましたが、最初から御参加いただいている方は思い起こしていただきたい。南小と南三原小で半径2kmで円を書きますと、重なります。和田中と丸山中も半径3kmで円を書くと重なります。これは、内房の、富浦、富山、三芳ではないことです。ですから、旧町は違いますけど、極めて近い位置にある、そういう関係にある4つの小学校だということで、私ども4つの小学校を一つにするということで提案しております。先ほど申し上げましたように、旧和田町だけで考えますと、丸山地区も同じですけど、10年後いくかいかない内に、全校で100人を割るような子供の数になることが見えてきていますので、そのことも含めてもう一度、御協議いただければ大変ありがたいと思っています。よろしくお願ひします。

事務局     それでは、前回に引き続き、協議をお願いいたします。事務局から追加資料を配付いたしますので、しばらくお待ちください。

(追加資料の配付)

今回が11回目の合同会議となりますが、いろいろな考え方がある中で、再度4校を1校にする必要性や、これまでの経過、また建設候補地を選定するにあたり、何に重きを置くのかなどの基本的な考え方の共通認識を図っていただきたいということでお配りをいたしました。丸山地区・和田地区の学校等再編について、まず「建設候補地を選定する基本的な考え方を検討」ということで、小学校建設候補地を選定するにあたり、「①地域性や地域の思いを優先させるのか」、「②子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方などを優先させるのか」、「③あるいは両者のバランスをとるのか」、について御検討いただきたいと思います。これまでの経過について触れさせていただきます。丸山地区と和田地区については、平成23年9月に和田地区学校再編検討委員会準備会、同年11月に丸山地区学校再編検討委員会準備会を立ち上げ、それぞれ23名の検討委員を選出し、検討が始まりました。当初

は、丸山地区と和田地区でそれぞれ検討委員会を開催していましたが、平成24年8月から両地区合同で会議を開催しています。合同会議では、中学校については、統合時期を平成26年4月1日とし、学校の位置は現在の丸山中学校となりました。また、幼稚園・小学校については、統合時期は未定ですが、1園・1校に統合し、学校等の位置は南三原小学校区内で検討することとなり、各小学校で地区説明会等を行い、それぞれの検討委員会から意見具申がありました。小学校の位置を南三原小学校区内で検討することについては、地域性や地域住民の思いに重きを置き、中学校は丸山中学校を使用することから、小学校は南三原小学校区内で検討することとし、位置については、両地区の学校再編検討委員会において検討することとなっています。学校の位置を検討するにあたり、検討委員から建設候補地を提案してほしいという御意見があり、教育委員会として、まず建設候補地となり得そうな場所を南三原小学校区内で5か所選び、それぞれについて海拔や徒歩通学者数などの調査を行い、それらの調査結果を総合的に判断してE地点を建設候補地として提案しました。したがって、A、B、C、Dの4地点については、調査をする場所として選定した場所であり、建設候補地ではないということの御理解をいただきたいと思っております。

次に、建設候補地を提案するにあたっては、幼小PTAや、また昨年11月に行った地区説明会での意見等を参考として選択基準を設けました。選択基準としては、「(1)市の基準でもある海拔が15m以上でより高い場所であること」、「(2)徒歩通学者が多いこと」、「(3)国道からも近く、幼保の送迎等に便利なこと」などを重視し、AからEの5地点について検討を行いました。調査結果については、平成25年2月の第7回会議で報告したとおりです。

次にE地点を建設候補地とした理由ですが、A地点は海拔が低いことや、高圧電線に近いこと、またバイパス道路の予定地でもあり用地の一部は既に県において買収済みであること。B地点は、海拔はクリアしているものの、河川が近いこと、また進入路が狭いため道路の拡幅が必要となり、その延長も大規模であること。C地点は、海拔が低く、海岸からの距離も1km未満と海に近いこと、また徒歩通学者が少ないこと。D地点は、海拔はクリアしているものの、徒歩通学者が最も少なく、また国道からも奥に入り込むため、保育所や幼稚園など保護者による送迎等が不便なこと。E地点は、海拔をクリアし、徒歩通学者や交通アクセスも比較的良い場所であるため、それらを総合的に判断し建設候補地として提案しました。

今後の検討にあたってですが、これまでの検討委員会での検討状況や、また各PTA総会や地区説明会等においてもいろいろな御意見があり、現時点では、建設候補地についての協議が整わない状況となっています。そこで、これまで地区説明会等でいただいた御意見等を

まとめ、再度、検討を進めるにあたり考慮すべき事項を整理する必要があると考えています。両地区を通して特に多かった意見は、次のとおりです。(1) 海拔15mでは安心できないため、より高い場所、(2) 海からなるべく遠い場所、(3) 2次避難するくらいなら、初めから安全な場所、(4) 交通アクセスが良く、送迎等が便利な場所、(5) 高圧電線を含め、安全・安心な場所、(6) 有事の際に安心でき、普段の送迎等も便利な中学校隣接地、(7) 将来を見据えた小中一貫教育の可能性の実現できる中学校隣接地、(8) スクールバス等を共有することにより経費節減ができる中学校隣接地。このように、これまでの会議や地区説明会の中でも海拔に関する質問や要望が数多く寄せられており、「海拔15mで、もし何かあったら責任をとれるのか。」などの厳しい御意見もいただいております。

そのような状況の中で、市としましては、過去の津波被害や南海トラフ地震による津波予想高などを考慮し、海拔15m以上であれば大丈夫との見解となっておりますが、仮に15mを超える津波が押し寄せ、死者が多数出てしまった場合には取り返しのできない事態であり、責任の取りようがないのが実情であると思います。また、建設候補地については、小学校だけでなく幼保一体化施設も建設する見込みであることから、仮に2次避難をするとなると、年齢に応じた避難方法等についても考慮しなければなりません。したがって、海拔が何メートル以上ならば絶対大丈夫であるとか、また何メートル以上であれば安心できるとかは、年齢などにより異なるため個人差があり、その基準を設定することは難しいことだと思います。そのため、できるだけ多くの人に理解を得るためには、これまでの地区説明会や合同会議等で出された御意見等を参考に、新たに建設候補地を探すことも検討しなければなりません。新たな建設候補地を検討する場合は、できるだけ多くの方が安心できる高さであり、なおかつ、徒歩通学者数や、将来における小中一貫教育の可能性、更には交通アクセスが良く、保育所や幼稚園などの送迎時に便利な場所であることなどを考慮する必要があります。また、これまで、地域性や地域住民の思いに重きを置いていましたが、子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方に重きを置いた検討も必要となってきます。

小学校の統合については、校舎などの建設に相当な期間を要することとなりますが、丸小学校では児童数が減少し、極端に男女のバランスが悪いことや、平成30年度には複式学級となる可能性が高いこと、和田小学校でも児童数が減少し、平成31年度には複式学級となる可能性が高いことや、校舎の老朽化が激しいこと、南小学校と南三原小学校は、海拔が低いことなど、それぞれの学校が現行のままでは大きな問題を抱えています。このような現状の中で、子供たちの安全・安心を確保し、適切な教育環境とするためには、できるだけ早く

統合しなければならない状況にあります。前回の会議では、「E地点で良い」、「C地点を建設候補地として検討してほしい」、「丸山中隣接地が良い」、「新たな建設候補地を探した方が良い」、「旧町村単位での統合にすれば良い」というようないろいろな御意見がありましたが、これまでの検討内容を踏まえたうえで、いろいろな視点から御検討をお願いいたします。参考としまして、丸山中学校隣接地という御意見が出ていましたので、同様の調査を行いました。調査結果としましては、海拔は28.2～29.8m、徒歩通学者は69人、スクールバス通学者は246人という結果となっております。

続きまして、平成25年5月1日現在の乳幼児数を基に算出した、和田地区と丸山地区の小学校児童数の推移見込みについて説明をさせていただきます。

まず、南小学校から説明させていただきます。ちょうど町村合併のあった平成18年度の小学校1年生から6年生の合計人数は159人、平成22年度は150人で、比較しますと5.7%の減となっております。そして、平成25年度は133人となり、平成22年度と比較しますと11.3%の減となっております。そして平成31年度になりますと104人となりまして、平成18年度と比較しますと34.6%の減となる見込みとなっております。

次に丸小学校ですが、平成18年度が89人、平成22年度が78人で、12.4%の減。平成25年度では74人となり、平成22年度と比較しますと5.1%の減、これが平成31年度になりますと57人となりまして、平成18年度と比較しますと36%の減となる見込みとなっております。

丸山地区全体では、平成18年度が248人、平成22年度が228人で、8.1%の減。平成25年度では207人となり、平成22年度と比較しますと9.2%の減。これが平成31年度になりますと161人になりまして、平成18年度と比較しますと35.1%の減となる見込みとなっております。

和田小学校につきましては、平成18年度が97人、平成22年度が95人で比較しますと2.1%の減。平成25年度では79人となり、平成22年度と比較しますと16.8%の減。これが平成31年度になりますと48人になりまして、平成18年度と比較しますと50.5%の減となる見込みとなっております。

南三原小学校につきましては、平成18年度が100人、平成22年度が130人で、ただ、ここは北三原小学校が統合になっていますので、全体で見ると14.5%の減。平成25年度では120人となり平成22年度と比較しますと7.7%の減。これが平成31年度になりますと88人になりまして、平成18年度と比較しますと42.1%の減となる見込

みとなっています。

和田地区全体では、平成18年度が249人、平成22年度が225人で9.6%の減。平成25年度では199人となり平成22年度と比較しますと11.6%の減。これが平成31年度になりますと136人になりまして、平成18年度と比較しますと45.4%の減となる見込みです。

丸山地区、和田地区両方を合わせた場合では、平成18年度が497人、平成22年度が453人で8.9%の減。平成25年度は406人となり平成22年度と比較しますと10.4%の減。これが平成31年度になりますと297人になりまして、平成18年度と比較しますと40.2%の減となる見込みです。

参考までに、南房総市の人口数は、平成18年度は45,967人、平成22年度が43,823人で人口の減少率が4.7%の減。平成25年度では41,974人となり平成22年度と比較しますと、4.2%の減。また平成18年度と比較しますと18.3%の減となります。

次に、小学校の各学年の男女別生徒数の推移見込みですが、丸小学校区を例にあげますと、1歳児は男の子が10人、女の子が2人、また3歳児は男の子が6人、女の子が1人、また小学校3年生は男の子が10人、女の子が0人と、このように男女のバランスが悪くなっています。また、和田小学校についても、2歳児は男の子が5人、女の子が1人ということで、子供の減少率が激しいこと、また子供が減少することによって男女のバランスが非常に悪いクラスがでてきています。

次に、クラス数の推移見込みですが、平成25年度はまだ統合していませんが、4小学校をひとつの学校としてみた場合、13クラスが必要となりますが、平成27年度になりますと12クラスに減ることが予想されます。

次に、以前にもお配りしました資料になりますが、南房総市立小学校及び中学校の配置図になります。まず内房地区ですが、小学校を中心に半径2kmの円が実線で描いてあり、中学校を中心に半径3kmの円が点線で描いてあります。内房につきましては、実線が他地区の小学校区と重なる部分はありませんので、小学校の距離がある程度離れていることがわかります。これが千倉地区になりますと、健田小学校・朝夷小学校・忽戸小学校・七浦小学校を中心にした半径2kmの円が、かなり重なりあっており、4校の小学校が比較的近い範囲にあるということで、平成26年度から4校が1校になることになっております。丸山・和田地区についても、4小学校を中心に描いた円がかなりの部分において重なりあっている

かと思えます。したがって、丸山・和田地区についても、1校となり得る区域であることが、お配りしました地図からお分かりになるかと思えます。以上です。

委員長 　ただ今の教育長からのお話し、そして資料1、2、3を配っていただいて、それらについての説明を事務局からいただきました。ただ今からの協議でございしますが、中心は追加資料に沿って協議を進めていただきたいと思います。それでは、御意見のある方どうぞ。

委員 　資料3の和田小の位置というのは、この位置でよろしいんですか。細かなことですが、和田小の位置というのは、和田浦駅のすぐ近くだと思います。これだと真浦の所の位置か。もうちょっと東の方が和田小の位置で位置が違うと思います。

事務局 　和田小と書いてある字の辺りが、正しい位置ですか。

委員 　和田町仁我浦の上あたりではないですか。

事務局 　和田小の位置が1.5cm位少し右側にずれるということですね。

委員長 　表示の件で指摘がございましたが、他にございますか。

委員 　今、何について検討していますか。この資料についてということですが。

委員長 　本日配られた追加資料1については、これまでの長い間の検討委員会の流れを網羅してあるように思うんですね。ですから、こういったものに基づいて協議をしていただきたという方向なんです。

委員 　場所についてですか。

事務局 　御検討いただきたい部分が、まず基本的な考え方の部分が資料1の①②③になります。建設候補地を選定するにあたって、当初、事務局側から地域性や地域の思いを優先して提案をしましたが、ここへきていろいろな御意見が出てきているということで、まず、建設候補地を選定するにあたって、「①地域性や地域への思いを優先させるのか」、「②子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方などを優先させるのか」、それとも「③両者のバランスをとって検討した方がいいのか」、このことについて、まずは基本的な考え方から共通認識を図るために御検討いただきたいということです。

委員 　分かりました。

委員 　今回提案のありました資料1について、今までの資料と突き合わせてみますと、選択基準として3項目あるわけですね。1点目が「海拔の高い所」、2点目が「徒歩通学者の多い所」、3点目が「国道から比較的近く、送迎に便利な所」ということで、今までずっとこれを基にやられてきております。その間、市としましてはいろいろ提出されましたね。E地点はどうですかと、提案されて、それに対して皆さんがいろいろな思いを馳せながらやっているわけ

ですけれども、これをこのままずっと聞いていても堂々巡りかなと思うので、この点は委員長  
の裁断で、E地点はどうかのと、賛成なのか、反対なのかと採ってもいいのではないかと、  
それから先に進まないで今まで検討されてきたことが無駄になるような気がします。E地点  
について一生懸命検討したんですから、まずこの点はどうかとはっきりさせないことに  
は、またC地点だとか、D地点だとかになってくる気がします。市の提案も非常に細かくやら  
れていますし、皆さんも思いがあるからいろんな事を言いますが、是非この点について  
委員長の指導をもって、そういう方法を取ったらどうかと思います。

委員 E地点とC地点の相違点ですが、E地点は検討の中でおっしゃったとおり、丸山との境目  
だと思います。二つ目にE地点は沼地区の延長で埋め立てで、杭が大分必要ですと。コスト  
面からも相当掛かるということ。そして3番目、堆肥のにおいのこと。それと、4つ目に、  
通学路の拡幅費用が大分掛かること。よって、この前、南三原幼小PTAの委員がおっしゃ  
ったとおりC地点でお願いしたい。ということは、平成24年9月13日に、「幼小は南三原  
でやる」ということも出ていますんでね。それで新たにC地点でお願いしますということな  
んですけれども。新たにF地点（丸山中学校隣接地）が出たけども、その点は考えておりませ  
ん。和田としては、南三原に決まったものですからね。教育長が前回の会議で盛土を考えて  
いないと、何で盛土しちゃいけないんですか。盛土して外構やる方が杭を打ったりするより  
も、コスト面から考えたら安くあがるんじゃないかと思うんですけど。

委員長 今までの検討過程もあり、皆さんの大方がE地点に向いているかもしれないので、E地点  
はどうかと諮ってみてはとのことなんです。また、もう一人の委員さんからは、C地点の  
ことに関して、ある程度候補地と考えていいのではないかと御意見をいただきました。

委員 今日、この新しい資料が出た意味ですが、AからEだけではなしに、もう少し広く候補地  
を検討してもいいのではないかと趣旨と受け取りましたがどうなんでしょうか。実は私  
は、昨年度末の第8回会議には出ていなかったんですが、その場で丸山中学校隣接地にも可  
能だと言う意見が出たという会議録を読みましたので、今年度始めの第9回会議で、丸地区  
の区長の代表として丸地区の思いを話しました。その時の趣旨は、安全安心、とりわけ安心  
が第一だと、それから第2は、折角近くに建てるのであれば小中一貫、あるいは幼保小中一  
貫ということで、そういう教育だったらいいだろうと、それが2つの柱だったわけです。と  
ころがその会議の中で、丸山中隣接地については当初のお約束と違うから、その話はまずい  
という御指摘を受けまして、9回、10回は発言を控えさせてもらいました。今日の趣旨が  
そういうことであれば、隣接地についても意見を持っていますので、是非話したいと思いま

すが、事務局としての意図をもう一度改めてお伝えいただければと思います。

教育長 私どもがお願いした内容ですが、事務局から提案しましたけども、内部でAからEの5地点を検討しました。先ほど、委員から御指摘がありました観点としましては、最終的には3点です。この3点というのは、冒頭で私が申し上げましたように、今までの検討委員会、あるいは説明会においていただいた御意見を基にして、この3つの観点で決めていくのがいいのか、5つの内部で選んだ候補地を検討しまして、最終的にE地点ということで提案したわけです。したがって、本来ですと、何回も申し上げていますが、E地点だけを提示して、AからDは出さないにしようかという議論もあったのですが、飽くまでもどういうかたちで自分たちが決めてきたかをオープンにするために、あえてAからDまでを出したということです。ですから私どもにとっては、AからEは同一ではないということです。今までの経緯とか、あるいは今までの地区の皆さん方の思いを考えると、やはりE地点だというのが私どもの結論だったわけです。今日の提案ですけど、この前の会議でも、「それならもう、旧和田町、旧丸山町で小学校を1校ずつで、ある程度機が熟すまではそれぞれでやりましょう」というような意見まで出ています。ただ私どもとしては、先ほども申し上げましたように、子供たちの数が減ってきますので、なかなか「そうですね」と言うわけにはいかない事情があります。したがって、私どもが出したE地点を撤回するわけではありません。この前、提案されましたC地点を拒否するわけでもありません。ただ今日は、E地点とかC地点とかそういうものを抜いて、皆さん方の思うところを議論していただいて、最終的には、資料1の黒枠で囲ってある①、②、③ですね、こういったところで結論めいたものがいただければ、今後、委員会で検討していく事の方が出てくるのかなと思っています。ですから、現時点では、私ども①、②、③のどれにしようとかの意図も全くありませんし、皆さんの思うところを語っていただければと思っています。

委員長 今の教育長のお話し、その事を特に皆様方をお願いしているようでございますが、御理解いただければと思います。資料1の上の方に示されている、①②③ですね。小学校建設候補地を選定するポイントというか、基本的な考え方ですね。この件に関して皆さん方、思いを語っていただけないでしょうか。

委員 資料1の2ページの最後の方から3ページの頭の方に書かれている表現は、危険度の度合いを表されていると取れるのではないかと考えました。あともう一点は、子供たちの数の減少が明らかですので、最終的にはそれこそ小中一貫教育の流れが出てくる可能性は高いと思います。仕事で助産師をやっていますが、高齢出産の方が目立ち、出産の数自体が増え

ることは多分ないと思います。減る可能性の方が高いと思います。若しくは、若い方が出産を考えたとしても、経済面を考えると適齢期を迎えて出産をしようと考えた時は30歳を超えてくるだろうと考えます。早くにして、子供を授かるのと、年齢が高くてそれこそ40代を迎えるあたりの両極端でその間が余りありませんので、かなりの数として減ってくる可能性が高いと思います。

委員 資料1の中では、「②子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方などを優先させる」というものが一番最優先ではないのかと考えます。あと、子供の数が年々減少していく中で、10年後、更に20年後を見据えて考えたとき、小学校の建設は丸山中の隣接地に建設することが望ましいと考えます。また、子供の安全面も優先し、幼保一体、また小中一貫は隣接した場所に建てるのが必須になってくると思われます。

委員 ひとつ御説明していただきたいのですが、将来を見据えた学校のあり方と書いてありますが、どのようなことを具体的に指すのでしょうか。

教育長 これは、3ページの①から⑧です。

委員 4ページの「これまでは、地域性や地域住民の思いに重きを置いていましたが、子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方に重きを置いた検討も必要になってきます」と書いてありますが。

教育長 ですから、3ページの①から⑧まであります。この項目というのは、私どもが考えたというよりも、今までの説明会や検討委員会の話し合いの中で出てきた内容です。そうすると、今、御指摘の事については、「⑦将来を見据えた小中一貫教育の可能性の実現できる中学校隣接地」が該当してくると思います。⑦の「将来を見据えた」というのは、二つ意味があると思います。今、委員からお話しがありましたように、これからはますます子供の数が少なくなっていくだろうと、そういうことは、小中一貫にするかどうかを別としてひとつの場所に小中がまとまっていた方が、いろいろな可能性が出てくるだろうとこれまでも出てきたと思います。もうひとつは、もっと具体的になってくれば小中一貫の良さというようなものも発揮できるようなそういうものを考えてくのも必要ではないかとの御意見が出てきておまして、それが具体的に申し上げれば将来を見据えたという中身になってきます。

委員 分かりました。それで、その中で小中一貫の良さというのが、どういうものなのか具体的にまだ見えていないんですけども、どういうメリットがあって、どういうデメリットがあるのかよく分からないので、どのように見据えればいいのか判断できないんですけども。

教育長 大きく2つあるかと思えます。例えば富山小中で説明してきて、デメリットは言えないん

ですよね。運用の仕方ではいろんなことが出てきますけど、例えばこの前、長狭学園で実際にやってらっしゃいました先生の発言が第8回でございました。体育館が狭いとか、要するに施設の面から。今、長狭学園は大きな体育館を造り直していますけど、元々中学校の体育館としても小さい体育館で小中一緒にやっていたから、この前の発言になったんだと思います。富山小中の施設面については、最初から小中一貫ということで造っていますので、今の段階でデメリットということはなかなか考えにくいということで御理解をいただきたいと思います。メリットの方ですが、いわゆる中一プロブレムがあります。小学校から中学校に入る時に環境が大きく変わって学校に行けなくなることがありますが、同じ校舎の中で6年間過ごしてきて、同じ校舎の中で同じ人間関係の中でそのまま中学生になりますので、そういうことは無くなると思います。幼保一体の方も同じ考えであります。メリットのもうひとつを挙げるとすれば、例えば、中学校の先生も小学校の先生も両方で授業ができるような免許状を与えますので、中学校の音楽の専門の先生が小学校の音楽を教える、あるいは中学校の英語の先生が小学校の5年、6年を教えるとか、あるいは小学校の5年、6年で教えた先生が中学校の授業にチームティーチングとして参加したり、あるいはそのままある教科を持ったりとか、教師の方が乗り入れができるという、ですから子供にとっては、非常にそういう面は精神的に安定すると思いますし、より専門性の強い先生に指導を受けるというようなことがメリットになってくるかと思っています。あとは、全体的に富山小中が特に考えているわけですけど、学年2クラスをなかなか見込めないわけですので、縦に人数を増やしていこうと、ですから保育所の子供から、幼稚園、小学校、中学校、0歳から15歳までが同じ敷地の中で生活することによって、子供の数の少なさをカバーできるのではないかとこのような発想で富山小中一貫は考えています。こちらの嶺南小学校になるかと思うんですが、嶺南小中学校については、まだ小中一貫とか想定しておりませんので、具体的には考えていませんけど、同様なことがメリットとしては考えられると思います。

委員            ということは、小中一貫ということは前提にはしていないけど、将来的には考えたいということに理解してよろしいですか。

教育長           現実的に平成26年度とか、平成31年度でも、4校の小学生が全部集まると297人ですから、かなりの数の子供たちがいるわけです。学年2クラスありますので、平成31年、あるいはそれから5年先は4校統合した小学校でかなりの人数を維持できるかなと思っています。その先の15年、20年経った時にはちょっと予測がつかないんですけど、先ほど申し上げましたけど、4校が折角統合した小学校であっても、100人位とか、あるいは10

0人までいなくても、学年1クラスとか、そういうときがやってくるのかなど。そのときにはその時点で考えればいいのかなど。私どもが考えたのは、地域のバランスというものを考えましたので、小中をひとつにするとか、同じ所に持ってくるとか、そういったことは考えないで別々の所ということで提案しました。ですけど、今、皆さん方の意見、あるいはいろんな地区の説明会でも小中一緒の所の方がいろんな可能性があるだろう等の御意見はいただいておりますので、先ほども申し上げました⑦のところ、そういうかたちで書いてあります。

委員 分かりました。今のお話しはよく理解しました。運用上のメリットという部分はよく分かったんですが、子供の人格形成上の問題とかそういうことに関しては、中一プロブレムというものに対する対応ということだけのメリットだけですかね。それ以外のことの評価はまだできないということですか。

教育長 これも前に申し上げたかもしれませんが、全国的に6年、3年の区切りではなくて、9年間の区切りで考えていこうと、いわゆる小中一貫ですね、その考え方を市全体に取り入れているところ、あるいは市の中でもいくつかの学校で小中一貫を取り入れているところが全国的には多くなってきています。ですから、そういうものが多く取り入れられているということは、やはりそれだけの効果が期待できる、あるいはあるということで評価されていると思っています。

委員 その点に関して、以前の「ゆとり教育」に対する評価もそうなんですが、国が音頭を取ってやっていくような雰囲気だったわけですが、ゆとり教育自体の評価は余り良い評価は出ていないですよ。そういった意味では、はやり雰囲気を感じてしまう。国の方針が、9年でまとめましょうというのは、きちんとした評価がどれくらい出るか分からないのにはやりでやっているような雰囲気を少し感じているんですよ、子供を持つ親たちとしては。

教育長 ゆとり教育は確かに国の文科省の施策として出てきました。小中一貫の考え方、実施の仕方というのは、国の方では法的には何もやっていないんですね。ですから、長狭学園も法的には長狭小学校6年間と長狭中学校3年間別々の学校なんです。ですけど、市町村の考え方でひとつの9年間というまとめの中を3つに分けますとか、飽くまでも市町村が主体的にやっていることでありまして、ですから長狭学園も通称長狭学園なんです。法的には小学校、中学校なんです。私ども、今、建設を進めています富山小中一貫校も法的には小学校、中学校別々です。校長も別々、ひとりが兼ねるわけですけど、法的には国はそこまで進めていませんので、飽くまでも市町村がその良さを理解して、市町村が主体的に決めて進めていると

いうことで御理解いただければと思います。

委員 分かりました。

委員長 そうしますと、委員からの今の質問やお考えはこの3項目についての方向性というか、特に重点を置くというのは、選定するにあたり考え方というのは。

委員 考え方としましては、私は、そこに書いてある「②安全や安心」ということに関しては、重く考慮すべきだと考えています。今の、将来的に小中一貫になるという、その「一貫」というものが何を指すのかが分からなかったので質問をさせていただいたんですけれども、将来的にというお話でしたので、今すぐというわけではないですから、ある程度の評価が出た後で移行するのかもしれないのか考えるのであれば、対応性を残すような方向性もありかなとも感じています。

委員 私が幼稚園の時、今から60年位前の話だけれども、その頃は、場所が幼小中一貫だったんですね。それが、段々別れてきた。それがなぜそうなったのか、それでまた元に戻ろうとしているのは、どういう意味があるのかお聞きしたいと思って。何らかの都合があって、ただ人数が増えたために学校が狭くなって別れたのか、それとも何らかの、それじゃあまずいんだよという意味で別れてきたのか、私ども外野には分からなかったから、教育長あたりなら、経緯や何らかの理由が分かるのかなと思って。

教育長 私もそのことを研究しているわけではないので、ただ経験的に言いますと、かつて50年前は、ここが今、丸山保育所が豊田中学校だったわけです。それで、保育所の南側の生け垣の所に小学校と中学校の音楽室とか特別室があって、小中で兼用していたような記憶があります。そして、今の丸山地域センターの敷地にコの字型で小学校の教室があったかと思えます。それで、私が小学校を卒業すると同時くらいに取り壊された丸山中学校ができました。丸山中学校を別に造ったというのは、あの頃の考え方として、中学校は中学校で規模を大きくして多くの先生をひとつの学校に置いて、教育をしていこうという考え方があったと思えますので、千歳小中学校も多分そうだったと思えます。丸小中学校も石堂寺の上と、今の所と極めて近い所にあったかと思えますが、そういう中学校をできるだけ大きな規模でという傾向が、今から40年から50年位前はあって、和田中も統合したと思えますし、どこも小中が別れてくるかたちになったと思えます。今は、6年、3年という区切りで教育することが果たしてどうなんだという中身の問題があって、小中一貫という考えが出てきていると思えます。先ほど、委員さんの方にお答えしなかったんですけど、小中一貫、同じ施設の中でやるやり方もあります。小中がちょっと離れた所で、連携型小中一貫というのもあります。

ですから私どもは、この南三原小学校区で小学校を検討するということを提案した時には、小中一貫については、この地区については一体型の小中一貫は出来ないなど、ですから小中一貫をやるとしたら、中学校と小学校が離れた所で連携型の一貫教育をやるしかないなどということまでは考えていました。そうやってきますと、例えば英語の先生が小学校の英語を教える時には先生が中学校の方から行って教えるとか、そういうような連携型の一貫が可能性としては残るだろうという判断で南三原小学校区内で検討するという提案をしております。

委員 先ほどの委員の意見に私は賛成なんですが、議長の方からまだ答えが返ってきていないのが一点、それから、E地点をみますと、「海拔をクリアし、徒歩通学者、交通アクセスも比較的良い場所であるため、それらを総合的に判断して建設候補地として提案しました。」ということで、先ほど、C地点というお話しが出ましたけども、C地点は海拔が低く、海岸からの距離も1kmということですので、どちらかというとE地点の方がいいと。それからもう一点は、先ほど他の委員からお話しがありましたけども、議事録を見ますと、平成24年9月13日に、検討委員会で南三原小学校区に設置で決定というふうに出ているわけです。この決定については、非常に重いものであります。今までこれで進んできて、E地点で検討してきたわけですから。それがE地点ではいけないという理由をまず皆さんに聞いて、それをやらないと話が先に進まないですよ。そのへんを、議長の方をお願いしたい。

委員長 今の御意見と先ほどの御意見もちょっとお預けみたいになってしまって申し訳ありません。資料1の選定する基本的な考え方①②③について検討すべきことも大変重要なことだと思いますので、大変申し訳ありませんがちょっとお待ちいただいたんですけど。委員の方で、資料1の選定の基本的な考え方を、あえて添えていただけますか。

委員 先ほど私が申し上げましたのは、今回の資料1の①、②、③の選定にあたっての基本的な考え方として書かれています。今までの議事録を読んでもらえば分かるとおおり、選択基準として3項目、市の方から出されております。海拔の高い所、徒歩通学者の多い所、国道から近く車の便利な所ということで、今回の資料と今まで検討されたことと、何ら変わることなく、そういう中でもっているいろいろE地点という場所が浮かび上がってきて、それでいいのか悪いのかといろんな問題が議論されたわけで、相当の日数と前年度の方々とやられてきているわけです。先へ進むために、反対も賛成もあるかと思うんですけど、このE地点についてどうなんですかということをお委員の方から提言していただきたいわけです。

委員長 選定の基本ということに関してと、今のような候補地のお考えを言ってくださった方の意見が、どちらも非常に重要なことで、いろんな関わりが、かけ離れたことではないというの

は感じているわけですが、E地点ということに関して、候補地にするということに対して何か御意見いただけないでしょうか。

委員 新たに丸山中学校の近くですね。候補地として入れていただけないでしょうか。

委員長 違った候補地ということで、中学校隣接地はどうかと。それに関して、基本的な選定基準に関わり付けてお話しいただけないでしょうか。

委員 いやいや、皆さんでそれを相談して候補地として入れてもらえないかということです。

委員長 中学校隣接を考えてみたいと御意見を出されました。

委員 今日の会議の一番の目的は、資料1にあります候補地を選定する基本的な考え方を検討するにあたり、①、②、③のどこに重点を置きたいかもう一度考えてくださいという会議ですよ。そうなりますと、候補地云々ということは、今日の議題ではないと考えて良いのか、それとも候補地の話も入ってきてしまっているのか、候補地の話も絡めて考えるのか、事務局としてはどちらに重きを置いているのか教えていただきたい。

教育長 候補地を挙げることは考えておりません。私どもが提案したのは、③で提案したわけです。両方のバランスをとって最大公約数的にE地点ということで提案したわけです。ただこれで賛成が得られない、そうすると①に重点を置いて何が何でもという意見もありますし、地域性にこだわらないで②で決めていこうという御意見をいただくところもあったわけです。したがって、第9回、第10回のこのあたりは、私からいえば①、②が極端になってきているのかなと。そうなってくると、もう一回、①なんですか、②なんですか、それとも③でいくんですかというものを問わないと、これは決められないのかなということで、今日、協議していただいたんです。ですから、今、委員さんがおっしゃった丸山中隣接地も挙げてくださいという根底には、①、②、③のお考えがあると思うんですけど、その①、②、③のそれ以外にもあるかも分かりませんが、基になる考えをいただいて、そういうところでじゃあ何を一番大事にして決めていこうということが出てきましたら、候補地をその一定方向の上で、皆さん方でまた協議して決めていっていただけるのかなというそんな思いを持っております。

委員 そうでしたら、申し訳ないですけど、今日はEだのFだのCだのっていうのは無しにした方が話がぶれないと思うんです。とにかく、①、②、③で私は個人的な意見としますと、和田地区としては②は十分分かるんです。子供たちの安全・安心・将来というのは十分分かっています。ただやっぱり地域を優先したいというのがあるんです。ですので、その地域を優先したいという気持ちを何とか抑えるような良い意見をいただいて、和田地区の方を納得させていただけるような会議にさせていただけたらと思うんです。私も初回からずっと出ていま

すけど、EだのCだので3回時間を使っています。私は次のステップにいった方がいいと思っています。それで資料1として、教育委員会の事務局の方から何を優先にしますかと提案があったので、まずは候補地Eだの、Cだの、Fだのじゃなくて、とにかく考え方、和田地区の②を優先したい気持ちは良く分かっているんだけど、でも①も捨てられないんだよというところを納得していただけるような御意見をもっといただきたいと思うんです。

委員長 大変申し訳ありませんでした。今の委員の話の方がすっきりしていて、また貴重な時間で取り組んでいるわけですので、他の委員さんからも御意見ありましたが、今のはっきりとした御意見を軸にして、残り少ない時間ですのでこの選定に関する基本的な考え方ということで、ここだけに絞って皆さん方に御意見をいただきたいと思います。

委員 今日目的ということですので、教育委員会は最初から両方のバランスを考えてという話でしたので、両者のバランスをとった中で考えていただきたい。

委員長 ③ですね。

委員 私も両者のバランスをとって考えていただきたいです。

委員 私も会議に最初から参加させていただいているんですけど、元々私は、子供の安全・安心を第一に考えて、丸山中の隣というのが一番の希望でしたが、丸山だけの話ではなくて、和田との合併なので、話がなかなか進まなかったということもありますし、歩み寄ることも必要だということで、南三原小学校区内で検討するという意見に賛同しました。南三原小学校区内で一番安全な所ということを含めての賛成でした。今回、会を進めていく中で、教育委員会から南三原小学校区内でAからEまでを選定して、その中で調査したところ、E地点が一番安全だということで候補地として出たんですけども、私としては、においのリスクはあるにしても、やっぱり安全・安心を第一に考えたいので、南三原小学校区内で検討するのであればE地点を一番に考えたいと思います。E地点が丸山に近いということで、それならば丸山中の隣でもいいという意見を和田からいただいて、会議の流れとしてE地点か丸山中の隣かのどちらかという流れで会議が進んでいくかと思ったんですけども、Cとか他のところが出てきてしまったので、堂々巡りというか、意見がまとまらないということもあり、私もどうしていいか分からなくなってしまったんですけど、やっぱり安全・安心を第一に考えてもらいたいと思います。自分の子供を通わせる立場に立って考えていただきたいと思います。

委員長 ①、②、③でいうならば、②ということよろしいですか。

委員 ②です。

委員長 他の方はいかがですか。

委員 やはり、説明会とかで意見が出てきたのは、より安心ということで皆が重視しているので、私も②の安心を一番にしたいと思います。

委員 自分の意見としては、両者のバランスをとった③なんですけど、②は子供たちの安全、当然のことだと思うので、載せなくてもいいんじゃないかなと。またここで、丸山中の隣がどうのこうのと言っていますけど、ここでまた話を戻してしまうと先に進んでいけないと思うんで、ここはもう、南三原小学校区内で検討するで皆さん意見が一致しているわけですから、ここでまたF地点を入れるだとかは止めた方がいいと思います。

委員長 考え方としては②ですか。

委員 ③です。②も確かにあるし、地域の思いもあるんです。

委員長 確かにこれを御覧になると②であり、また③であるというような意見も、正直言ってあるかなという気がしますね。

委員 同じような意見なんですけども、地域の思いもあるし、子供たちへの思いもあるということで、両者のバランスをとる③を推したいと思いますけども、最終的に決を採るような、ここにいる皆さんがどういう思いでいるんだっていうのを、挙手をするなり、なんなりというかたちではやれないんですかね。

委員長 私も、何回か前の会からどうやって決めていけばいいかと考えをいろいろ巡らせたことがあるんですが、たくさんの委員さんがいる場でのことですから、挙手といった方法もひとつの方法だとは思いますが、内容がAかBかというものではないので、子供たちの将来の大切な学校の環境整備なので、多数決で15人位が賛成しなかったけど、あとの人が賛成したからってことで、そういったかたちは採るべきではないんじゃないかなと、自分では悩んでいるところなんです。そのへん、御理解いただきたいなと思います。

委員 十分理解できるんですけど。それぞれに、方向性を決める話合いをして、今の話し合いが続いて、じゃあ、どの①、②、③方法で話を進めていきますかと答えが出せますかね。

委員長 先ほど委員がおっしゃったように、納得できるような御意見を待ってくださっているわけですね。私もね、そういった姿が学校を創って、同じ学校のPTAということで将来集まるお母さんやお父さんのことを考えると、やはり和やかな感じで物事を決めていくということが望まれているんじゃないかなという気がするものですから、余り多数決でというのはどうかなと迷っていて、申し訳ありません。

委員 皆さんが納得できる意見というのがなかなか言葉で表現できないものですから心苦しいん

ですけど。

委員長 委員の意見としては、②ということでもいいですか。

委員 いえ、③です。

委員長 他の方、どうでしょうか。意思表示をしていただければ。

委員 ひとつ、関係無い話しなんだけど、E地点というのは南三原小学校区内ですか。南三原小学校区内で造るっていうのが前提だから、E地点が丸山だとすれば、検討した結果、南三原小学校区内には安全な場所がなかったっていう話になるんですが、どうなんですか。

委員長 質問ですか。

委員 E地点が、南小学校区内なのか、南三原小学校区内なのか。

教育長 これは前にも説明したと思いますが、例えば①を最優先すると、E地点でいろいろ②、③も考えなければいけない中で考えていった結果、かなり丸山寄りになった。それでも、原則の①で何が何でも南三原小学校区内でなければいけないという結論を出すのか、というような話しはしましたよね。

委員 してないだろう。

教育長 しました。ですから、今、E地点を私どもが提案した段階では、南三原小学校区を想定しています。その中でいろいろ議論していった結果、あるいはそこで決まって用地を買収していくことになるわけですけど、相手方がどうしても駄目だとすれば、ずれてくるだろう。そういう場合でも、何が何でもというようなことになるのか、ならないのかということは有り得る話だと思っています。ですから今日は、E地点であるとか、そういったことは言わずに議論をしようということです。

委員 それでは、私は②です。

委員長 今の協議の部分は、「建設候補地を選定する基本的な考え方」ということですので、そのことについての意見をお願いします。

委員 私も先ほど委員がおっしゃった、納得できる意見ということが非常に大事だと思います。なぜならば、E地点で決を採るとか、あるいは丸山中隣接地とでどちらがいいかと決を採るといった場合には、多い方に決まるとは思うんですが、必ずしこりが残って、大変後味の悪い決定になるんじゃないかと思うんですね。今まで3回なかなか決まらなかったってことは、それなりの不安があったわけです。「電磁波」については測定をしてもらった。「におい」については、うやむやになっています。例えばそれを推してやるのであれば、その堆肥舎をどうするかまで提案してもらえば、多少安心して賛成できる向きも出てくる。私は丸地区な

ので、非常に話がしづらい立場ですが、私は丸山中に子供を通わせても、南三原に子供を通わせても距離は同じです。どちらが安心かと言えば、丸山中隣接地の方がずっと安心です。それは数字を見れば分かります。高さがひとつあります。それからこれから起こるであろう南海トラフだとか、あるいは房総沖だとか、相模湾沖だとか、そういう地震の想定震度が千葉県から出されております。南三原から千歳地区は最もひどい震度で真っ赤に染まっております。そういった所へ、多少は工法でやれるとは思いますが、わざわざ建てないといけないのかというのが、私の家から等距離にある2つの地点を比べた時の実感なんです。それは安全基準が目立っているかもしれないですけど、私は丸山中隣接の方が安心です。そういった観点から申し上げますので、E地点だったら、ここはもっとこうしようですか、丸山中だったならば、和田地区の人にもっと納得してもらえる方法はないかとか、そういう意見をもっと出した方がいいと思うんです。細かいことを言えば、スクールバスひとつ取ったって、一緒がいいと思うんですけども、そういうこと以前にやっぱり地区感情というものがあるので、しこりを残さない程度の話をした方がいいかなという意見です。

委員長 委員の考え方は、①②③のどれになりますか。

委員 ②です。たまたま私の家が丸地区で等距離なので、等距離で考えるとそういうことです。

委員長 ①か②か③で答えていただいていると思うんですが、意思表示はどうでしょうか。今のところは、御意見をいただいたのはおよそ10人位なんですけど、③であり②であり、③とお答えいただいたのが4人、②とお答えいただいたのが4人ですね。

委員 今聞いていると、②は丸山、①が和田の意見のように聞こえてしまうんですけども、安全で安心で地域性も考えられる場所があればそこでいいわけですね。

委員長 そういうふうに考えたいわけですね。

委員 ②は丸山中の隣接地ということなんですよ。「将来を見据えた学校のあり方」を入れてしまうと、②は丸山中の隣接地。安全で安心な地域性も考えた所がもうひとつ選択肢としてあってほしいんですけど、どうでしょうか。

委員長 例えば、選択肢がこの①、②、③だけではなくてということですか。

委員 ③なんですけど、さっきも言ったんですけども、さっきから聞いていると、②が丸山、①が和田みたいな。

委員長 そんな感じはしますけどね。

委員 そういう決め方はやっぱり良くないと思います。

委員長 私からは言いにくいことでは。そうすると、それぞれの方の大切な考えであり、またい

ろいろな思いでもありますから比重はどちらも同じかなという気もいたします。

委員 今、御意見がありましたけど、②がFの丸山中隣接地というような感じですね。③というのは、先ほど教育長がおっしゃられていたE地点であるということですよ。

教育長 いや、私どもがE地点を提案した時の考えは、③の両方のバランスを考えて妥協できるというのはおかしいですけど、その時点では、ここしかないなということで提案しました。

委員 ですが、会議の流れの中でいろんな諸問題が出てきて、余りうまくないのではないかといいことで、今、迷走というかそういったところに入っているわけですよ。いろいろと検討された過程を再度伺ったりしますと、やはり③のバランスのとれている場所はE地点なのかなと、判断しているんですけども。そういう方向性でよろしいのでしょうか。

教育長 私ども、当初提案したものを、何が何でも通すような考えは持っておりません。これは、オープンなかたちで、再編検討委員会の皆さん方に議論していただくということであって、例えば、千倉地区では私どもが提案したものと全く違った結論になっています。私どもは4校を2段階に分けて、4年間位かけて1校にすることを提案したんですけど、再編検討委員会の議論で教育委員会の考え方ではいけないとのことで、統合するなら1回でと話しが進み、来年4月1日の4校統合という結論になっております。私ども提案しまして、再編検討委員会の皆さんが議論を尽くして、私どもが提案したものと違うものになっていくことは、それは当然有り得ることだと思っていますし、議論を尽くして、私どもが提案したものになっていくことも有り得る話だと、そんなふうに考えていますので、10年先、20年先に問われることになってきますので、それぞれのお考えをいただいた中で、議論をし尽くした中で決めていただければと思っています。

委員長 今の説明でよろしいでございますか。

委員 十分です。

委員 考え方なんですけど、結局EだのFだのってなってしまうんですよ。私も学校職員なんです、学校職員の立場と、あと北三原小学校の閉校にも関わり、今、和田中、丸山中の閉校、開校準備もやっております。何で和田中の統合を急いでくれと言ったかということ、子供がどんどん減ってしまって部活が成り立たない、数学の先生がいらない、国語の先生もいなくなってしまうという事態に陥らないためです。私は小学校は少人数でいいと思っています。ただ、少人数でいるよりも、ある程度の規模で、2学級あった方がいろんな面でいいと思います。例えば45人とかになって、20人ずつの方がよっぽど目も届くし、先生が2人いるっていうのは、とってもメリットがあります。そういった中で、②はFだとかおっしゃいましたけ

ど、併設するのがいいかどうかは分かりませんが、例えば教育委員会として、生き残る策として、小中一貫を富山のように進めていきたいんだというお考えがあるんだとしたならば、もう和田地区は諦めるしかないと思うんです。小中一貫を見据えてやるのであれば、それは近くの方がいいじゃないかと和田地区は諦めざるを得ないと思うんです。うちの子供たちは上の子が17人で、下の子は8人しかいなかったです。8人の時にはすごくよく見ていただいて、私は北三原小を潰すのはとっても嫌でした。ただ、南三原に統合してみたら、大人数でもそれはそれでメリットもたくさんありました。ですので、小中一貫の推進派ではないんですけど、教育委員会で小中一貫を見据えて将来的にやっていきたいんだよ、だから和田地区は諦めてくれともっていった方が、和田地区の人は諦めがつくと思うんです。はっきり言っていた方が、私は話が進むんじゃないかと思うんで。そうすると地域のおじいちゃんとかおばあちゃん、お母さんも、その方が子供たちのためになるんだったら、納得しようかということになると思うんですよ。富山のように方向転換をぱっとしてもらえれば、私たちは納得できると思います。

委員長 先ほど委員から話合いの枝分かれを心配して、考え方で大分かかっていたところですが、考え方が決まってくると、次の候補地へ当然話が動いていくと思います。地域性だとか、子供の安全・安心という面で、まだ、必ずしもこれは決定しなくてもいろんな思いを重ねていけば、段々と考え方が皆さん方でおさえられて、それに基づいて協議をしていけば、候補地に関してもお互いに納得しあえる段階に進んでいけるのではないかなと思います。

教育長 先ほどの委員の小中一貫の考えですよ、正直言って、揺れていますし、今でも悩んでいます。それは、20年後を考えた時には、小学校もかなり小規模になってくる。子供の数も減ってきて、小学校でも1クラスになってくるだろうと、その時に、小中一貫にすれば良かったとか、そういう話が20年後より前に出てくるとは思っています。ただ、今の段階では、地域のいろいろな思いを考えると、小中一体型の一貫ではなくて、分離型で仕方がないと思っています。20年後、あの時こういうふうにしたからと言われることは覚悟しています。ですけど、これはまた皆さん方で協議をしていただいて、また持ち返っていただいて、いろんな思いを持って、次回参加していただければ大変ありがたいと思っております。あともうひとつ、今日ありがたかったのは、久しぶりにこの会議の中で笑いが出たということで、前回と前々回は余り笑いが出ない雰囲気の中で、非常に私も心苦しいというか、心配していたんですけど、多少笑いが出たということでちょっと安心しております。

委員長 統合に関する考え方で、ある程度皆さん方も御意見の発表がないにしても、②か③か、あ

るいは①であるということは、十分思っていたきたいと思います。それも含めまして、本当は今日の会議あたりで、いい結論ができればというところでしたが、今、教育長からありましたように、長い目で見た時に両方の地域の方々が心をひとつにして学校建設を進めるにあたり温かい雰囲気を決めることが非常に大事だろうというようなことも考えまして、再度でありますけど、候補地を決めることは次回にさせていただきたいと思います。

次に第3号の次回の合同会議の日程について、事務局から何か報告がございますか。

事務局 次回の日程でございますが、専門部会の進捗状況にもよるんですが、10月21日（月）はいかがでしょうか。その日で決定したいと思いますがいかがでしょうか。

委員 ひとつ提案だけど、会議を和田地区でもやってみたらいいんじゃないですか。

委員 和田のコミセンはこの人数は入らないですよ。

委員長 次回は10月21日（月）、時間は午後7時から、会場は丸山公民館でよろしいですか。

（異議なし）

以上で本日の議事は終了いたしました。傍聴人の方は御退席をお願いします。

（傍聴人退席）

それでは、その他について事務局から何かございますか。

事務局 特にございません。

以上で、第11回丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会合同会議を閉会いたします。

（閉会）